

【ねがいましては】

平成20年7月25日

KYOWA SCHOOL

第213号

「笑ってこそ」

子供の仕事・・・笑うこと。ぴったりの表現です。

あの思い出したくない事件、秋葉原で起こった無差別殺傷事件。

容疑者の幼い頃をマスコミ各社が報じていました。・・・教育熱心な母親に育てられた・・・

私は憤りに包まれました。・・・教育という表現を使ってほしくない・・・。

私の思っている教育への定義は、『育むことで自らが教えられる・・・』です。

私は多くのことを子供たちから教えられてきました。助けられてきました。子供たちとの出会いがなければ、今のこのような心を受け取ってはいない・・・。

あの痛ましい事件に登場する容疑者の母親は、『自らの欲に忠実に従う我が子を育てればよい。』という自己中心的な考えのみではなかったのか。・・・『欲』・・・。

『このように育てたい』と、思った瞬間から母親の欲は実行されました。成績の良い子に育てよう・・・。その日から繰り返される母と子の間の感情のぶつかり合い・・・。やがて母の欲に屈した子は、言われるがままに母の言葉に忠実になります。そして、子に襲いかかる「ある感情」・・・。

『ひとりぼっち』・・・子にとっての一人ぼっちは、死に等しいものです。どのような動物でも、巣立ちを迎えるまでは母の十分な愛情を受け取りながら成長します。やがて自立を促すよう親は厳しく子を追い出します。「早く一人前になるんだよ・・・。」立派な愛情です。野生動物の母親の持つ厳しさには、『欲』など存在しません。

今の人間社会、早期教育をなさるお母様が多いように思えるのですが、その前に十二分に行っておかなければならないことがあるはずです。

『信頼』・・・どんなにあなたが悪いことをしても、どんなにあなたが叱られるようなことをしても、あなたの中で「悪いことなどしてない、叱られるようなことなどしてない。」という確信があるのであれば、お母さんはあなたの隣にいてあげるからね・・・。

子にとって最も必要なもの・・・母からの『信頼』です。家族からの信頼です。

安心していられる場所・・・家ではなく母の胸の中なのです。

思い出してください。お母様が幼少の頃、母に叱られながらも結局は母の胸の中で泣いていたことを・・・。

『成績』という評価の中で知らずのうちにわれを失ってしまった今回の容疑者の母親・・・。

私は今回の事件で真っ先に感じた事があります。

『私の教室は逆だ』・・・常に「一番大切なものは家族だよ。成績でもなんでもない・・・家族を一番に大切にすることが『ひと』なんだよ・・・。」

きょうもメールが入ります。「きょうはお母さんと食事に出かけるのでお休みします。そのかわりに〇〇曜日に来ます。」「きょうはお父さんの誕生日なので、お休みします。」「きょうは弟の看病をするのでお休みします・・・。」

家族がひとつになってこそ、子は強い安心感を抱きます。子はその安心感から親に対し、ある気持を抱きます。

『感謝』です。どうやってこの恩に報いたらよいか・・・。子はやがて強い信念を抱き歩き始めます。目的が子に宿ります。強く歩こうとします。あれほど嫌いだっただ『勉強』という二文字に向かって歩き始めます。

「絶対に乗り越えてみせる・・・。」母はその光景を見、思います。「ああこの子に会えてよかった・・・。」

子供の仕事・・・『笑顔』・・・この本来の子どもの仕事を忘れさせてしまうようなことにならぬよう、足元をしっかり見つめてください。我が子がどんな数字的な評価を受けようとも、これは人の心を『物』としか扱わない大人たちが作り出した一手段なのです。我が子が真剣に立ち向かっているのであれば、家族の中で100点宣言をしてください。

『あなたは立派な100点』・・・子はその言葉を待っています。

『精一杯が100点だよ』・・・この教室の中で私がひたすら言い続ける言葉・・・。

そして叱ってください。もし我が子が自分の人生に逃げを打っているようであったら・・・。

余命いくばくもない重病で闘病なさっている患者さんたちのお気持ちを察してください。生きたくても生きられない・・・。なんと失礼な行動なのか・・・。

精一杯に生きることが人の姿であることを・・・。

精一杯であれば100点・・・たとえテストが0点であっても・・・それがうそ偽りのない精一杯の姿であったのなら、しっかりと褒めるべきです。

我が子の笑顔に今一度・・・感謝・・・。

そしてここに通う子たちに・・・ありがとう・・・。

「あなたがたの笑顔はしっかり私を幸せにしているよ。」